

上美る、好事屋寶樹といふものありけり、

〔日本鹿子七〕同國江○近中名物出所之部

朽木塗物盆鉢五器等

〔驢驢嘶餘〕一梶井殿平生御膳一日雨御器表裏黑漆也無紋也江州クルシノ庄ヨリ毎年進納今ハ不納

〔胸算用〕長刀はむかしの鞘

紀伊國五器鍋蓋までさらりと新しく仕替へて略○下

合子用法

〔大鏡左大臣時平〕たゞこの君だちの御中には、大納言源昇卿御女のはらの顯忠おとゞのみぞ右大臣までなり給へる略○中御めし物はうるはしくごきなどにもまいりすべてたゞ御かはらけにて、だいなどもなく、おしきにとりするつゝ、ぞまいらせける、

〔長秋記〕保延元年正月十六日庚寅略○中依御物忌無御出居餽飽飯盛於小盤節會時盛合子也、

〔台記別記〕久安六年正月十九日丁酉略○中次家司親隆朝臣同著職事侍等著臺盤先是備饗於臺盤交居合云々

〔雅亮裝束抄〕ないらんのいるにもやのだいきやうを、すきのだい饗となづけてせらるゝ事あり略○中そむぎ以下の上達部に、ちいさき大ばんをすへてがうしのやうくゝなるにて、きやうを

すふるなり、

〔蓬萊抄〕御寢之後、主殿司寄疊垂幕夏之時無幕藏人等付寢、殿上人同之、獻殿上人以合子爲枕故實也、

合子雜載

〔本朝二十不孝四〕善惡のニツ車

今一人の乞食も老足なれば、駕籠に乗せ東路に下りぬ、残るものとして滅形合器、貝杓子、古筵の朝

露夕部に風の身を責め略○下

〔男色大鑑三〕編笠は重ての恨み